

国立国語研究所学術情報リポジトリ

外来語ウォッチング：定着度を追跡する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 相澤, 正夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003405

外来語ウォッチング 一定着度を追跡する

言語変化研究領域 相澤 正夫

H2

21世紀初頭における「外来語」の定着度の動きを、全国規模の経年調査によって追跡する。

1. 調査の概要と結果の一例

- 「外来語」言い換え提案のための定着度調査(2002~04年, 合計396語)を起点として, 10年後の2014年に精選された30語について同じ質問文で経年調査を実施した。
- 個々の外来語について, ①認知(=聞いたり見たりしたことがあるか), ②理解(=意味が分かるか), ③使用(=使ったことがあるか)の有無を質問した。
- 30語は, 10年前の前回調査の認知率によって10%きざみの10ランクに分け, 各ランクから3語ずつ選定した。
- 各ランク3語の目安は, 社会的な重要語が2語, 一般語が1語。

ランク	外来語 (*は一般語)	2004 認知率	2014 認知率	ランク の変化	ランク 増減
10	オンライン*	93.7	95.5	10-10	
	カウンセリング	92.9	94.1	10-10	
	ケア	90.7	94.3	10-10	
9	リスク*	87.3	93.8	9-10	+1
	コミュニティー	87.0	91.8	9-10	+1
	セキュリティー	82.1	95.2	9-10	+1
8	グローバル	77.4	89.7	8-9	+1
	リニューアル*	74.7	89.7	8-9	+1
	ケアマネジャー	72.9	94.2	8-10	+2
7	コンセプト*	69.2	79.9	7-8	+1
	ドメスティックバイオレンス	67.2	87.8	7-9	+2
	アセスメント	62.7	59.0	7-6	-1
6	セーフティーネット	55.9	67.4	6-7	+1
	ユニバーサルデザイン	53.4	67.4	6-7	+1
	モチベーション*	53.2	89.7	6-9	+3
5	アイデンティティー	46.7	65.8	5-7	+2
	インフォームドコンセント	43.8	46.5	5-5	
	コア*	41.5	58.1	5-6	+1
4	イノベーション	34.8	73.7	4-8	+4
	ログイン*	32.6	74.7	4-8	+4
	セカンドオピニオン	30.8	78.4	4-8	+4
3	ノーマライゼーション	26.5	34.6	3-4	+1
	コミット*	26.4	31.3	3-4	+1
	パブリックコメント	25.4	36.0	3-4	+1
2	ガバナンス	17.3	46.9	2-5	+3
	プライオリティー*	12.9	28.9	2-3	+2
	リテラシー	10.7	23.1	2-3	+1
1	コンプライアンス	9.7	62.8	1-7	+6
	オーソライズ*	8.2	14.9	1-2	+1
	トレーサビリティ	8.0	20.5	1-3	+2

全体の概観

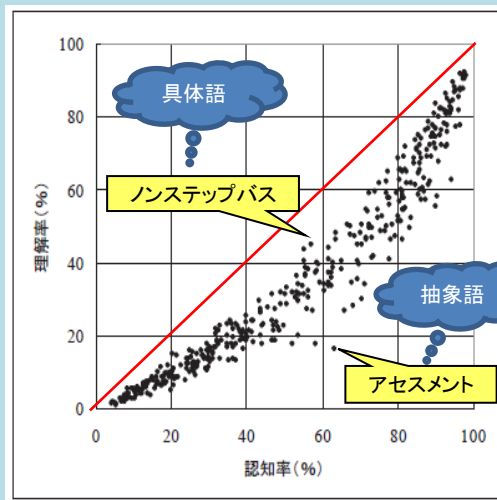
- 認知率(=その語を聞いたり見たりしたことがあると答えた人の割合)は, 1例(アセスメント)を除いてどのランクでも増加している。
- 数ポイントから数十ポイント増加した語(2ランク増まで)が多いなかで, 大きくポイントを伸ばした語(3ランク増以上)も6例ある(コンプライアンス, ガバナンス, セカンドオピニオン, ログイン, イノベーション, モチベーション)。

個別の観察

- きわめて低い認知率から急上昇した「コンプライアンス」と, それに準ずる「ガバナンス」は, いずれも社会運営上の重要語として近年マスコミ等での使用頻度が高いと想定される。
- 政治スローガンとして愛用される「イノベーション」, PC・ネットワークに不可欠の「ログイン」, 新しい医療の考え方を担う「セカンドオピニオン」など, いずれも近年の社会動向を反映する重要語と想定される。
- 一方, 医療の基本的な考え方を担っているはずの「インフォームドコンセント」は, 5割ラインの下で伸び悩んでいる。
- スポーツ選手などを中心に, 「モチベーション」は〈やる気〉という意味で近年ごく普通に使われるようになってきている。

2. 10年前の認知率と理解率

- 前回調査の396語について, 認知率を横軸, 理解率を縦軸にとって描いた散布図は, 下に示すとおりである。
- 認知率と理解率の相関は明らかで, 全体は中央部分がやや膨らんだ三日月形になっている。

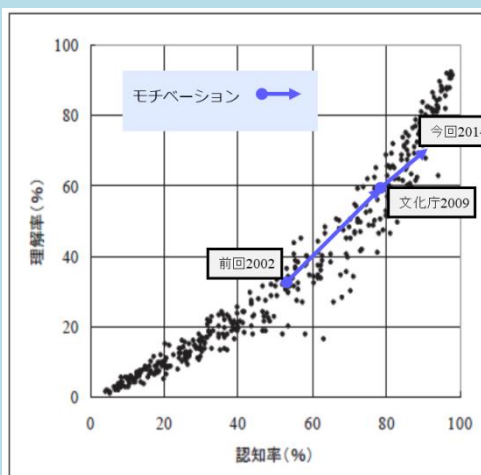
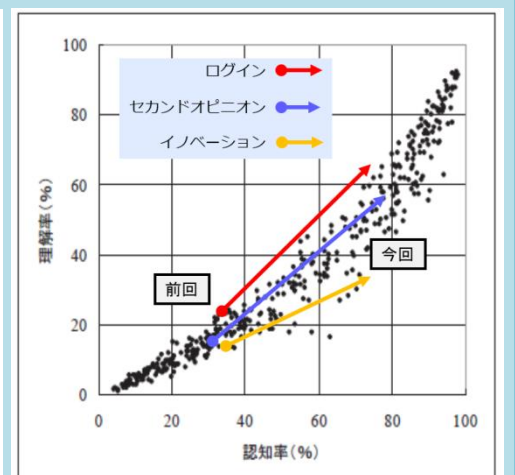
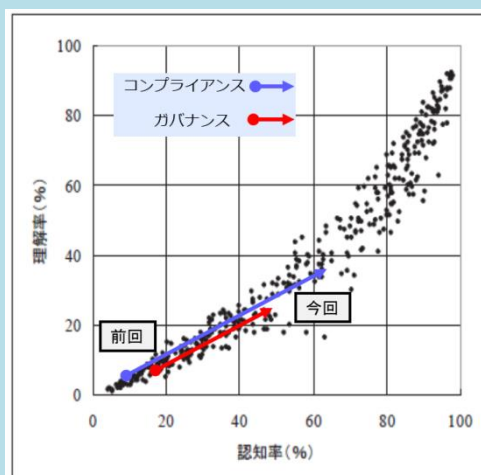


概観

- 定着度の低い段階では密集状態, 中程度の段階では分散状態, 高い段階では再び密集状態と, 散布模様の特徴は三つの段階で異なる。
- 理解率(=語の意味が分かったと答えた人の割合)は, 認知率より10~30ポイント程度低い値を示す。
- 理解率が極端に低い語が中央部に見られる(「アセスメント」はその典型例)。
- 理解率の高い「ノンステップバス」との対比から, 具体語と抽象語という違いが指摘できる。

3. 認知率と理解率の10年変化

- 認知率が大きく上昇した前掲の6語について, 理解率と合わせた10年間の動きを散布図上で観察する。



観察

- 定着度の低い段階の「コンプライアンス, ガバナンス」, 高い段階の「モチベーション」は, 散布図が描く三日月形のほぼ中心線に沿った動きを見せている。
- 定着度が中程度の段階では, 認知率が同程度に上昇したにもかかわらず, 3語の理解率にかなり大きな差が現れた。
- 理解率の極めて高い「ログイン」が具体的な動作を表すのに対して, 理解率の低い「イノベーション」はかなり高度な抽象語と言える。

4. 今後の課題

- 「コンプライアンス」のような, この10年間で定着に向かって一気に「離陸」した語の「促進要因」に関する多角的な分析・考察。
- 「インフォームドコンセント」のような, 重要語でありながらも定着の進まない語の「抑制要因」に関する多角的な分析・考察。
- 「(意味が)何となく分かる」という回答も含めた, 外来語の理解度の「回答選択傾向」に関する多角的な分析・考察。…等々。

【参考文献】 ●相澤正夫(2010)「外国語から外来語へ一言語・社会への定着過程を探る」『日本語研究の12章』(上野善道監修, 明治書院), ●国立国語研究所(2007)『公共媒体の外来語 ―「外来語」言い換え提案を支える調査研究―』(国立国語研究所報告126)

【付記】今回(2014年)の全国調査は, 国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクト「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」(リーダー:相澤正夫, 2009年度~2015年度)の一環として実施された。